

学校におけるユニバーサルデザインについて

R2年9月3日
藤小 教務主任

1 学校ユニバーサルデザイン化

通常の学級において、様々な課題を抱える児童の実態に応じた支援をするためには、大きく分けて、以下の3つの点が大切である。

- ①だれにとってもわかりやすい教室環境づくり
- ②だれにとってもわかりやすい授業づくり
- ③だれにとってもわかりやすい学級経営

上に述べた3点は、“だれにとってもわかりやすい”という点で共通している。つまり、教室環境づくり、授業づくり、学級経営をユニバーサルデザイン化するということである。

2 教室環境UDの5つのポイントについて

教室環境UDの5つのポイント			
1 刺激の調整	視覚	聴覚	触覚
2 見通しを示す	手順	予定	めあて
3 理解を助ける	ヒント		
4 ものの管理	自分のもの	学級のもの	配付物・提出物
5 ルールを示す	授業	遊び	係り活動

左に示した1～5の項目が、教室環境を考える上での大切なポイントとなる。そして、それぞれのポイントの右に書いてある項目が、より細分化した内容項目となっている。
例えば、2、見通しを示すための内容として、“手順”“予定”“めあて”の3つを示している。

3 5つの項目、それぞれについての実際の活用例と、モデルルームの様子について

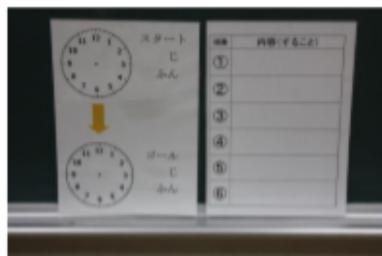
・ 1、刺激の調整（聴覚）

いすの足に、テニスボールをつけることで、いすを動かす時の音がかなり静かになる。音に敏感な児童に対して有効である。



・ 2見通しを示す（手順・予定）

作業の内容（順番）と、終わりの時間を示すことで、見通しのたちにくい児童の助けになる。



・ 3、理解を助ける（ヒント）

右と左を示すシートを黒板に貼ることで、左右の区別がつきにくい児童の助けになる。



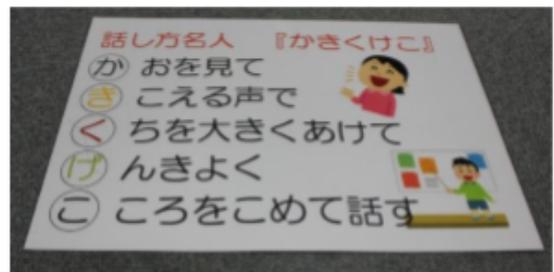
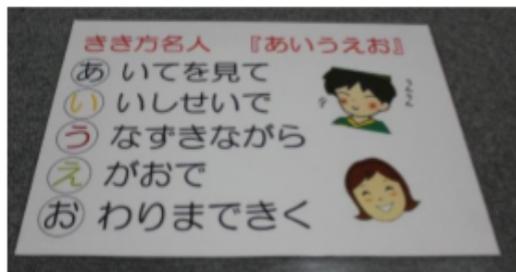
・ 4、ものの管理（自分のもの・学級のもの）

棚の整理の仕方の見本や、掃除道具の整理の仕方の見本のシートを貼ることで、片付けをする手助けとなる。



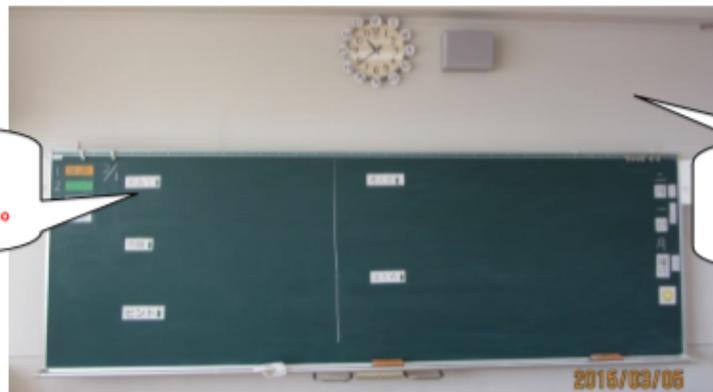
・ 5、ルールを示す（授業）

話し方、聞き方のルールを、視覚的に示すことで、ルールの徹底を図る。



・ モデルルームの様子

めあてを示し、それにもとづいた、評価をする。



黒板周りをすっきりさせる。

ランドセルの片付け方を写真で示す。



課題が終わった子のプリント等を用意しておく。

そうじの手順を絵で示す。



【参考】学校におけるユニバーサルデザイン ～教員の授業行動と、教室環境づくりから～
泉大津市立戎小学校 堀 友和先生の資料から抜粋

ユニバーサルデザインを意識した教員の授業行動25のチェックシート

1. 授業ルール

- ①授業前に学習に必要なものを机の上に準備させる。 unnecessaryなものは片づけさせる。
- ②チャイム着席させる。
- ③授業の始まり、終わりの挨拶をさせる。
- ④話をする人に身体を向けて聞く姿勢をとらせる。

2. 説明・指示

- ⑤子どもたちが静かになってから話す。
- ⑥指示をするときは子どもの手を止めてから話す。
- ⑦話の一文を短くする。
- ⑧教室の子どもたち全員に視線を向けて話す。
- ⑨指示した内容を子どもたちができたかを確認して次に移る。
- ⑩大切なところは2回言う、復唱させる。
- ⑪話しとともに視覚的支援をする。(主に板書)
- ⑫作業等の手本を示す。(実物投影機使用がベスト)
- ⑬授業の目標を示す。
- ⑭授業のスケジュールを示す。
- ⑮授業中の課題・活動の時刻・時間を示す。(視覚的支援が必要)※タイムタイマーがある と便利

3. 授業構成

- ⑯1時間の授業に、「聞く・作業する・話しあうなど」、3つくらいの活動を入れる。

4. 板書

- ⑰板書計画をあらかじめ立てておく。
- ⑱授業のふりかえりができる板書をする。

5. 立ち位置

- ⑲子どもたちから見えやすい位置、子どもたちが見やすい位置に立つ。
- ⑳子どもたちが板書を見やすい位置に立つ。
- ㉑話しているときは一カ所に立って(動かないで)話す。

6. 評価

- ㉒意図的な机間指導をする。
- ㉓課題の合格ライン(どこまでできればOKか)を決める。
- ㉔良い意見・行動があれば、すぐにほめる。
- ㉕授業の最後に振り返り(ノートかシートに記入など)をさせる。
※ふり返りの手引きを作成したのでよかったら使ってください。
リンク ➡ [ふり返り](#)
【校務PC 情報共有フォルダ → ◎学び合い資料 → ふり返り 掲示物】